



島原新時代
まつい もとひろ
松井 扶公 議員

景観

Q 鉄砲町の景観の規制はいつ定められたのか。

A 島原市では平成21年7月に島原市景観計画を策定し、下の丁の武家屋敷周辺に景観計画区域を指定している。景観形成基準は、建築物は和風木造を基本とし、2階建て以下、建物の高さ10メートル以下、屋根は伝統的な和瓦で、外壁の仕上げや色彩などを制限している。

Q 本市は景観行政団体として、景観関係の助成はあるのか。

A 住民協定を締結した事業区域内の建築物の屋根や外壁、門、塀、石垣の修景的な整備に対して、整備費の3分の2以内で250万円を上限に助成をしている。

Q 現在、伝統的建造物、重要伝統的建造物ほどのくらいあるのか。

A 伝統的建造物と思われるものは37棟程度で、そのうち、国の指定や登録文化財になっている建造物はない。

Q 今後、伝統的建造物群保存地区はどのように進める予定か。

A 文化庁や県、市の関係各課、あるいは住民の皆様と協議を行いつつ、住宅や石垣などを個別に守る方法を検討していく。

Q 今後、武家屋敷の売店はどうするのか。

A 今後の観光客のニーズ等を注視しながら検討していきたい。

【その他の質問項目】

◇たしる号



新風会
ほんだ じゅんや
本田 順也 議員

水産振興

Q 今年の有明海の水揚げの状況は。獲れないもの原因は。

A 令和5年と過去5年間の平均漁獲量を比較すると、カサゴが3倍、エビ類が1.7倍、コウイカは1.3倍、ガザミは横ばい。トラフグ、クロダイが7割減、タコ類は5割減。グチ、モチノイオは見かけなくなつた。海水温の上昇による生態系への影響が一因だと考えられる。

Q 春先に発生するヨコエビが毎年増加。イカ漁等に影響。対策は。

A 付着物の対策として漁網用コーティング剤を提案したが、抜本的な対策は引き続き県へ相談したい。

Q イルカの大量発生。対策は。

A 小型鯨類は、主に小魚やイカなどを捕食し、沿岸漁業への影響が心配。小型鯨類は一部の地域を除き捕獲禁止。音波発生装置で追い払う事例があるが、すぐに慣れてしまうことから、追い払うことは難しい。

人口減少問題

Q 本市の出生率と婚姻率は。

A 令和2年度の本市合計特殊出生率は1.68。人口千人当たりの婚姻率は令和2年で全国平均4.3。東京都が5.5で最も高く、秋田県が2.8で最も低い。長崎県は3.8で27番目。本市は2.8。

Q 婚姻率は所得が高いほうがいい。率をあげるための工夫、考えは。

A 結婚希望者を対象に、相談窓口の設置、各種セミナーの実施、出会いの場の創出のためのマッチングイベントの実施、県運営のマッチングシステムを利用したお相手探しなどの結婚サポートを行っている。また、新たに婚姻した世帯における住居費等の支援を行っている。若者の所得向上に向けた取組も必要になってくるのではと慮している。

【その他の質問項目】

◇ハラスメントが取り出されている。

学校教育で生活指導や部活での指導は成り立つのか

◇市役所職員教育はどのような指導を考えていくのか

◇役所の対応について不満を聞く市民とのコミュニケーションはとれているのか